

ワークショップ

座長：武井 実根雄（原三信病院）

関口 由紀（女性医療クリニック LUNA グループ）

❶ 冷えにより症状が悪化する下腹部痛 （膀胱痛症候群）に対する 当帰四逆加呉茱萸生姜湯の効果

女性医療クリニック LUNA ネクストステージ¹⁾

女性医療クリニック LUNA 横浜元町²⁾

女性医療クリニック LUNA 心斎橋³⁾

横浜市立大学大学院医学部泌尿器病態学講座⁴⁾

関口 由紀^{1) 4)}、中村 綾子¹⁾、二宮 典子³⁾

槍沢 ゆかり²⁾、大林 美貴³⁾、河路 かおる¹⁾

平本 有希子¹⁾、藤崎 章子¹⁾、矢尾 正祐⁴⁾

【はじめに】

当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、気逆による冷え（気が逆流して上昇する気逆によるもので、冷えとのぼせが混在する）に使用される方剤で、鼠径部の圧痛を腹証とする。

大塚らは、当帰四逆加呉茱萸生姜湯が適する病態として疝気症候群Aを提唱した。すなわち1)手足の寒冷、2)慢性の下腹部痛、3)疾病の本態は現代医学的検索によっても不明である。4)肝経の変動症状、ことに泌尿生殖器の障害、開腹手術、ことに婦人科手術、妊娠中絶、帝王切開の既往が多い。5)当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効である。

一方膀胱痛症候群は、以前から間質性膀胱炎と言われている慢性骨盤痛症候群の一病態で、膀胱痛と頻尿を主訴とする。膀胱痛症候群の症候として、疝気症候群Aの特徴2)3)4)は、完全に一致するため、女性医療クリニックLUNAグループでは、膀胱痛症候群は、疝気症候群Aにはほぼ一致する病態と考えて、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を第一選択薬としている。今回膀胱痛症候群に対する当帰四逆加呉茱萸生姜湯の成績をまとめた。

【対象と方法】

2017年12月から2018年11月の1年間に女性医療クリニックLUNA ネクストステージ（旧LUNA骨盤底トータルサポートクリニック）を受診し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与された患者は、99名であった。（平均年齢51歳、最小37歳、最大83歳であった。）これらの患者の疾患名、有効性、副作用に関して後ろ向きに検討した。

【結果】

疾患の内訳は、膀胱炎の繰り返しを含む膀胱痛症候群64名（65%）、過活動膀胱25名（25%）、線維筋痛症6名（6%）、GSM（Genitourinary syndrome of menopause-閉経後性器尿路症候群）4名（4%）だった。膀胱痛症候群64名（65%）のうち、漢方単独使用は、5名（8%）で、猪苓湯と合方されていた。他は漢方西洋薬併用で、併用されていた西洋薬は、アミトリプチリン、デロキシセチン、プレガバリン、ノイトロピン、アセトアミノフェン等であった。膀胱痛症候群のうちVAS（Visual Analogue Scale）で30%以上痛みが改善した症例を効果ありとした。当帰四逆加呉茱萸生姜湯投与で痛みが30%以上改善した患者は、44名（68%）であった。9名（14%）は、胃腸障害、湿疹等の副作用で内服中止、11名（18%）は、効果なく内服中止となった。

【まとめ】

冷えにより疼痛が悪化する膀胱痛症候群に対して当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、有効な方剤であると考えられた。